

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成24年6月14日 (2012.6.14)

【公開番号】特開2010-194470(P2010-194470A)

【公開日】平成22年9月9日 (2010.9.9)

【年通号数】公開・登録公報2010-036

【出願番号】特願2009-43145(P2009-43145)

【国際特許分類】

B 0 1 F 9/22 (2006.01)

B 0 1 F 3/08 (2006.01)

B 0 1 F 15/00 (2006.01)

B 0 1 J 13/00 (2006.01)

【F I】

B 0 1 F 9/22

B 0 1 F 3/08 A

B 0 1 F 15/00 Z

B 0 1 J 13/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月26日 (2012.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダに、材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持させる第 1 工程と、

前記容器ホルダを公転させながら自転させることにより、前記乳化容器内で前記材料を乳化させて乳化液を製造する第 2 工程と、
を含む乳化液の製造方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の乳化液の製造方法において、
前記第 1 工程にて、前記容器ホルダに、前記乳化容器を、前記高さ方向が前記自転軸線と直交するように保持させる乳化液の製造方法。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の乳化液の製造方法において、
前記第 1 工程にて、前記容器ホルダに、複数の前記乳化容器を保持させる乳化液の製造方法。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の乳化液の製造方法において、
前記第 1 工程にて、前記容器ホルダに、複数の前記乳化容器を、前記自転軸線と直交する一つの仮想平面上に位置するように保持させる乳化液の製造方法。

【請求項 5】

請求項 3 又は請求項 4 に記載の乳化液の製造方法において、
前記第 1 工程にて、前記容器ホルダに、複数の前記乳化容器を、前記自転軸線からの距離が一定となるように保持させる乳化液の製造方法。

【請求項 6】

請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載の乳化液の製造方法において、
前記容器ホルダが、ホルダ本体と、前記ホルダ本体に対して着脱可能に構成されたアダプタとを含み、
前記第 1 工程にて、前記アダプタに、前記乳化容器を保持させる乳化液の製造方法。

【請求項 7】

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダと、
前記容器ホルダを公転させながら自転させる駆動機構と、
を含み、
前記容器ホルダは、内部に材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持し、
前記容器ホルダを公転させながら自転させることにより、前記乳化容器内で前記材料を乳化させる乳化装置。

【請求項 8】

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダに保持されて前記容器ホルダと一体的に挙動するアダプタであって、
内部に乳化処理の対象となる材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持する保持部を有するアダプタ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

(1) 本発明に係る乳化液の製造方法は、

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダに、材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持させる第 1 工程と、
前記容器ホルダを公転させながら自転させることにより、前記乳化容器内で前記材料を乳化させて乳化液を製造する第 2 工程と、
を含む。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

この乳化液の製造方法によると、乳化容器内で、材料に乳化に足る大きなエネルギーを作用させることができ、乳化容器内で材料を乳化させて乳化液を製造することが可能になる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(2) この乳化液の製造方法において、

前記第 1 工程にて、前記容器ホルダに、前記乳化容器を、前記高さ方向が前記自転軸線と直交するように保持させてもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(3) この乳化液の製造方法において、

前記第1工程にて、前記容器ホルダに、複数の前記乳化容器を保持させてもよい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(4) この乳化液の製造方法において、

前記第1工程にて、前記容器ホルダに、前記複数の乳化容器を、前記自転軸線と直交する一つの仮想平面上に位置するように保持させてもよい。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(5) この乳化液の製造方法において、

前記第1工程にて、前記容器ホルダに、複数の前記乳化容器を、前記自転軸線からの距離が一定となるように保持させてもよい。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(6) この乳化液の製造方法において、

前記容器ホルダが、ホルダ本体と、前記ホルダ本体に対して着脱可能に構成されたアダプタとを含み、第1の工程にて、前記アダプタに、前記乳化容器を保持させてもよい。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

(7) 本発明に係る乳化装置は、

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダと、前記容器ホルダを公転させながら自転させる駆動装置と、を含み、前記容器ホルダは、内部に材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持し、前記容器ホルダを公転させながら自転させることにより、前記乳化容器内で前記材料を

乳化させる。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

この乳化装置によると、乳化容器内で、材料に乳化に足る大きなエネルギーを作用させることができ、乳化容器内で材料を乳化させることが可能になる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

(8) 本発明に係るアダプタは、

公転軸線を中心に公転しながら、自転軸線を中心に自転することが可能に構成された容器ホルダに保持されて前記容器ホルダと一体的に挙動するアダプタであって、

内部に乳化処理の対象となる材料が封入された乳化容器を、その高さ方向が前記自転軸線に対して傾斜するように保持する保持部を有する。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

このアダプタによると、乳化容器内で、材料に乳化に足る大きなエネルギーを作用させることができ、乳化容器内で材料を乳化させることが可能になる。